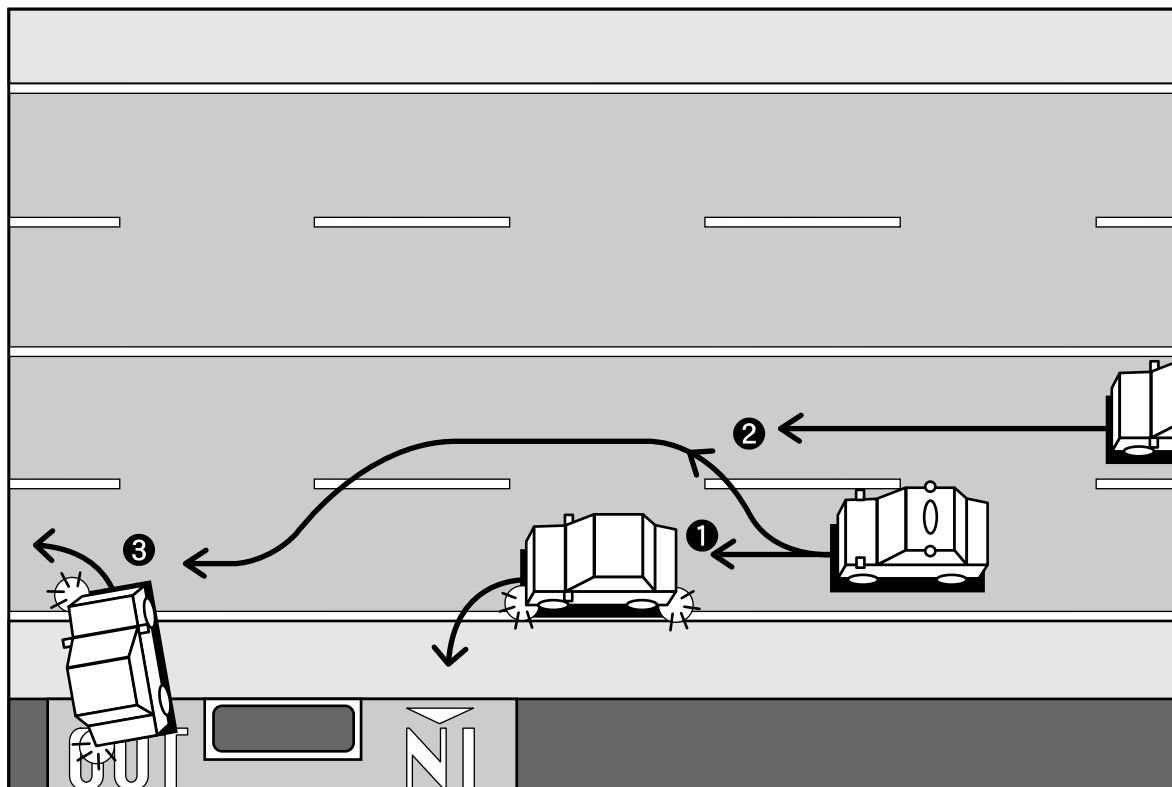


〔タクシー 1〕片側 2 車線の道路を走行



1 . 主な危険要因の例

- ① 道路の左側にあるショッピングセンターの駐車場に入るため前車が減速や停止をすることが予測され、このまま進行すると前車に追突する危険がある。。
- ② 停止した前車を避けるために右側車線に進路変更をすると、後続車と衝突する危険がある。
- ③ ショッピングセンターの駐車場から道路に出ようとした車と衝突する危険がある。

2 . 安全運転の例

常に前車との車間距離を保持して走行するとともに、前車が駐車場等の道路外施設に入るために右左折の合図を出したときは、減速や停止をすることを予測してスピードを落とす。

進路変更をするときは必ず後続車の有無を確認し、後続車が接近しているときは進路変更をしない。

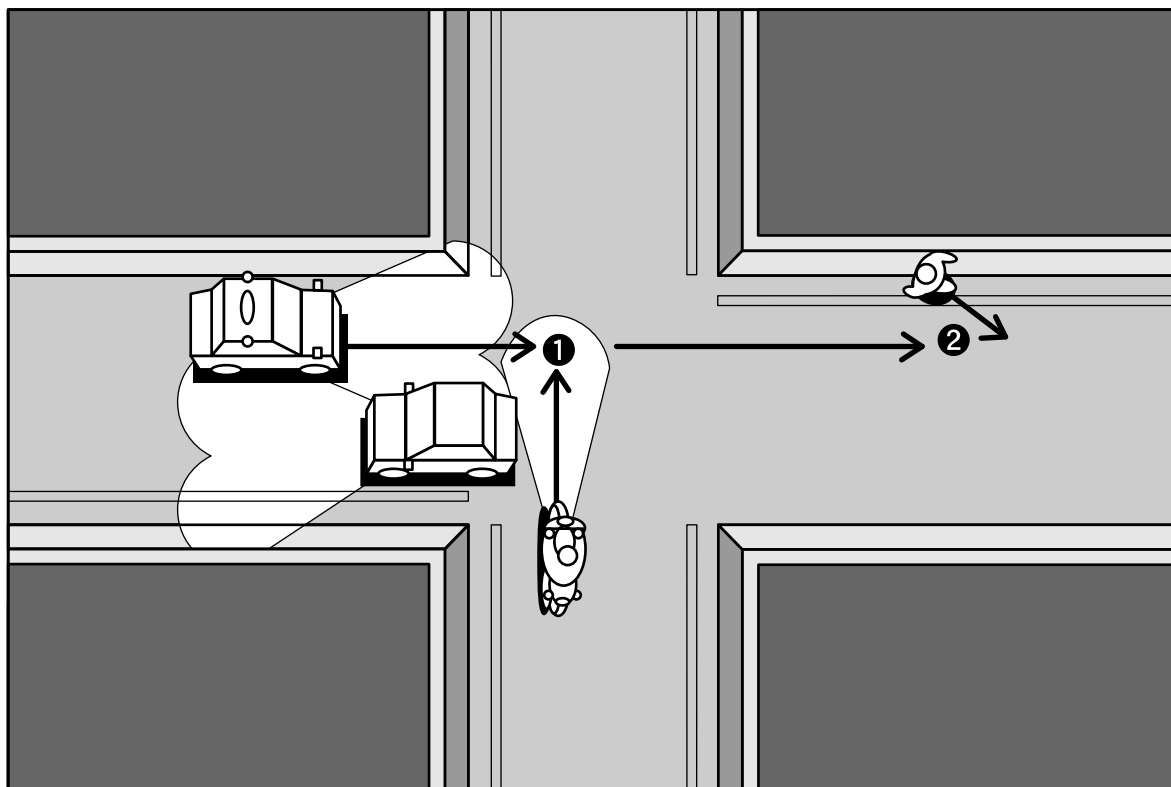
先の状況にもよく目を配り、特に駐車場等のある場所では、そこから出てくる車の動きに注意する。

3 . 乗務員指導のポイント

ショッピングセンターなどの施設に面した道路では、駐車場へ入ろうとしたり、駐車場から出ようとする車が多いので、前車の動きや駐車場の出入口の状況によく注意するよう指導する。

進路変更するときは、必ず後続車の有無を確認するとともに、後続車が接近しているときは、強引な進路変更はせずに後続車の通過を待つよう指導する。

〔タクシー 2〕 夜間、見通しの悪い交差点に接近



1．主な危険要因の例

- ① 交差道路の右側にライトが見え、二輪車等が接近していることが予測されるが、対向車の通過直後に二輪車等が交差点に進入してくると衝突する危険がある。
- ② 交差点の前方左側に高齢歩行者が見えるが、この高齢歩行者が横断してくるとはねる危険がある。

2．安全運転の例

見通しの悪い交差点に接近するときは、あらかじめスピードを落として進行する。

夜間は交差点の路面のヘッドライトにも目を配り、ヘッドライトが見えるときには交差道路から車が接近していると考えて、一時停止の標識や標示のない場合でも一時停止をして安全を確認する。

高齢歩行者は車に気づかず道路を横断してくることがあるので、その動きに十分注意するとともに、高齢歩行者が道路を横断してきたときは、一時停止等をして高齢歩行者の通行を妨げないようにする。

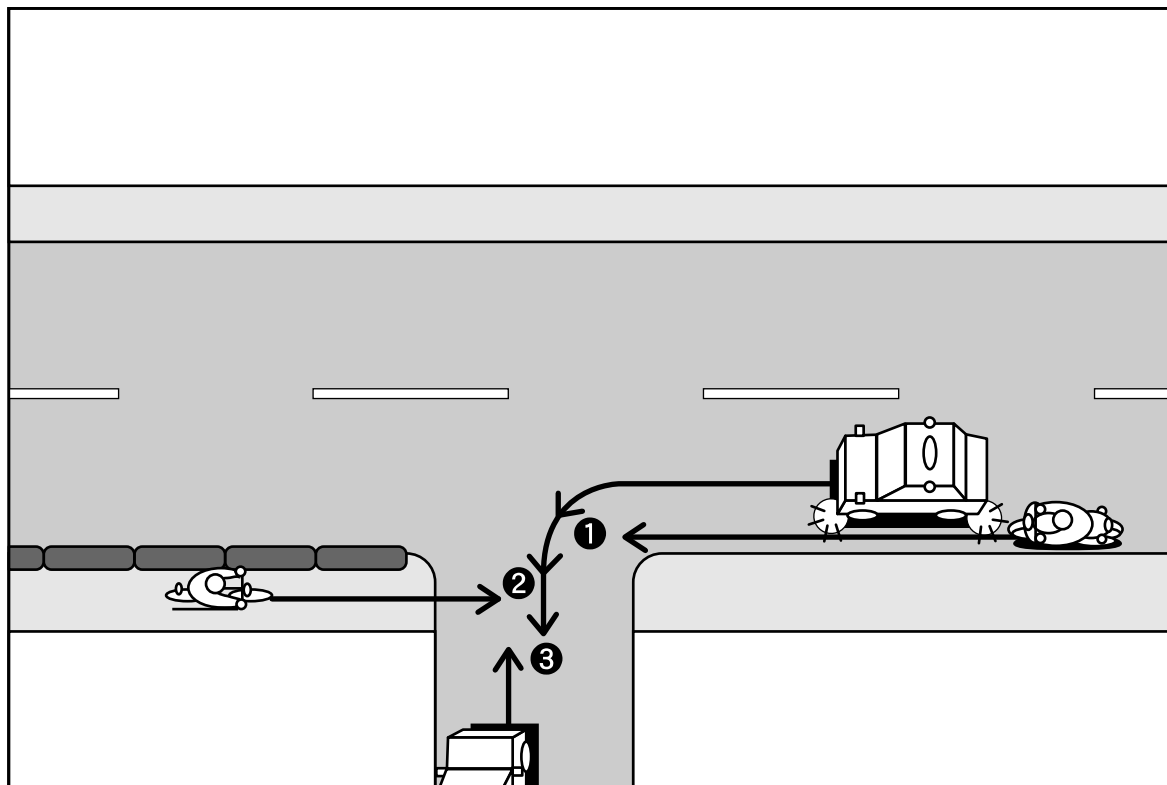
3．乗務員指導のポイント

見通しの悪い交差点で対向車があるときは、交差道路の右側から進行してくる車両の発見が遅れやすいので、いつでも停止できるよう徐行して進行するよう指導する。

夜間は交差点の路面にも注意し、ヘッドライトが見えるときは車両が接近していると考えて、一時停止をして安全を確認するよう指導する。

高齢歩行者が道路を横断しようとしているときは、一時停止又は徐行をして高齢歩行者を先に横断させるよう指導する。

〔タクシー 3〕 脇道への左折



1 . 主な危険要因の例

- ① 左後方から二輪車が接近しており、このまま左折を開始すると衝突する危険がある。
- ② 前方左側の歩道を自転車が行進しており、このまま左折していくと衝突する危険がある。
- ③ 左折先の脇道から出ようとしている車があり、このまま左折していくと衝突する危険がある。

2 . 安全運転の例

左折時は、必ず左後方や側方に二輪車がないかどうかを確認する。
歩道の状況にも目を配り歩行者や自転車が接近していないかどうかを確認する。

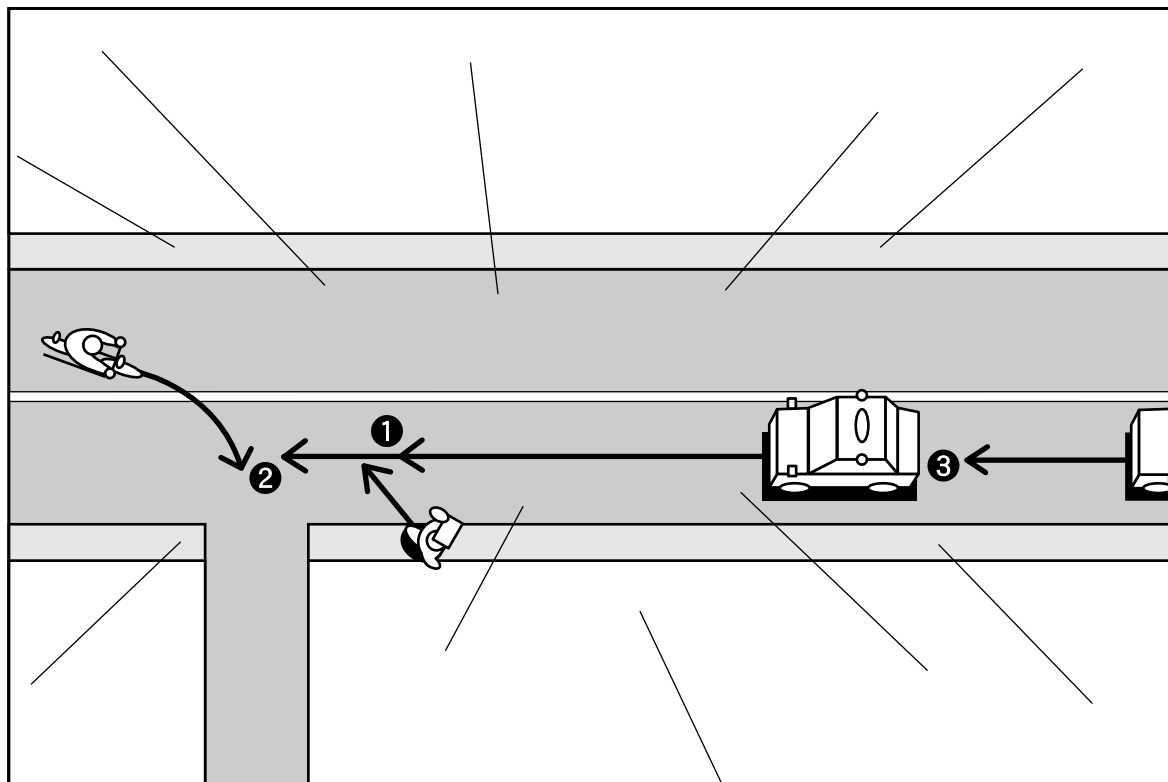
後方から二輪車が接近していたり、自転車や歩行者が歩道を通行しているときは、それらを先に行かせるとともに、左折していく先の道路の状況にも注意して徐行して進行する。

3 . 乗務員指導のポイント

次の左折の基本を再認識させる。

- ・左折時は早めに合図をして周囲の車両に左折の意思を確実に伝える。
- ・左後方、側方の二輪車の有無を確認し、二輪車が接近しているときは先に行かせる。
- ・歩道の状況、左折していく道路の状況に注意しながら徐行して進行する。
歩道と車道の間植え込みなどがあるときは、子供や子供の乗った自転車がその陰に隠れて見えにくいことがあるので注意するよう指導する。

〔タクシー 4〕雨天時の走行



1．主な危険要因の例

- ① 雨が降り始めたので、左側の歩行者が先を急ごうとして道路を横断してくると、はねる危険がある。
- ② 雨が降り始めたので、対向車線の自転車も急いで脇道に入ろうとして右折してくると衝突する危険がある。
- ③ 道路を横断してきた歩行者や自転車のために急停止すると、後続車に追突される危険がある。

2．安全運転の例

雨が降り始めると、歩行者や自転車は先を急ごうとして強引に道路を横断するなどの危険な行動をとりやすいので、歩行者や自転車の動きには特に注意する。

雨が降り始めたらスピードを落として走行する。

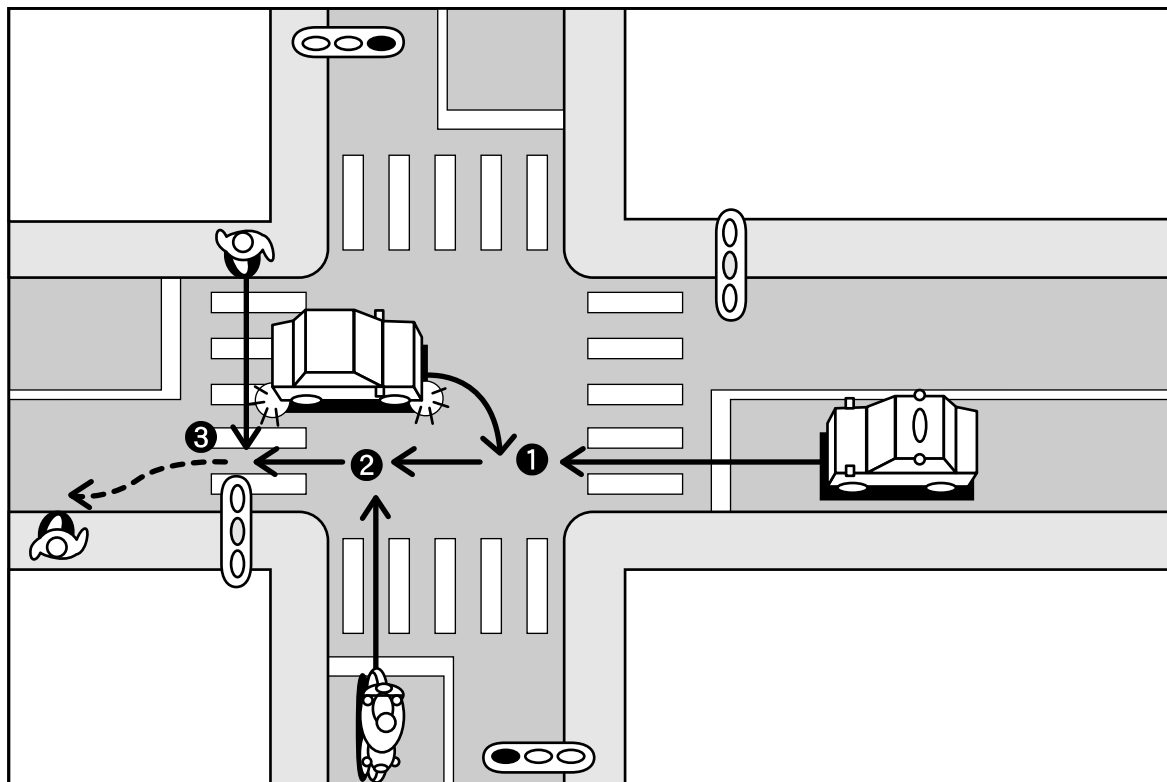
3．乗務員指導のポイント

次のような雨天時の歩行者、自転車、二輪車の危険性について理解させる。

- ・傘を持たない歩行者や自転車は予測のつかない危険な行動をとることがある。
- ・傘をさしている場合でも、傘のために視界が悪くなり、安全確認が不十分となって車に気づかないことがある。
- ・二輪車は視線が下向きになりがちで、周囲の車に対する注意が不十分になることがある。

住宅街や商店街など歩行者や自転車、二輪車の多い道路では、それらの動きに十分注意し、スピードを落して走行するよう指導する。

〔タクシー５〕黄信号の交差点に接近



1．主な危険要因の例

- ① 黄信号で交差点を通過しようとする時、右折を開始した対向車と衝突する危険がある。
- ② 信号が赤色に変わった場合には、交差道路側の二輪車が急発進してきて衝突する危険がある。
- ③ 信号が赤色に変わった場合には、横断を開始した歩行者をはねる危険がある。

2．安全運転の例

信号が黄色に変わったときは、無理に交差点を通過しようとはせず、交差点の手前で停止する。

交差点の手前で安全な停止ができずに、やむを得ず交差点に進入するときは対向右折車や横断歩行者等の動きに十分注意する。

3．乗務員指導のポイント

黄信号の場合では「車両等は停止位置をこえて進行してはならない。ただし、黄色の灯火が表示されたときにおいて、当該停止位置に近接しているため安全停止できない場合を除く」という道路交通法の規定を再認識させ、黄信号は停止が原則であることを指導する。

交差点に接近したときは、特に車間距離を十分にとり、信号や前車の動向に注意しながら走行するよう指導する。